

みなしご通信



クソ獣医のTNR お腹が破れる

この10年の間に親友Kと私の努力が実り多くの団体や個人ボランティアがTNRをするようになっていいう良い結果も生んでいますと同時に例の《スキマ産業獣医》が現れ悪い結果も出てしまいました。依頼した人々から、手術したのに「発情した」「出産した」「子宮蓄膿症に」※栃木拠点でもTNR後の子が出産した：などや「麻酔量が多すぎて死んだ」「出血が止まらず死んだ」「腸が出て死んだ」「間違つて尿路を切られた」などなど手術を受けた子がものすごい不幸になった話がいっぱい入るようになったのは2年ぐらい前かな。

その病院は「元・保健所センター」に勤務していた獣医がやってるスペイ専門の〇〇スペイクリニック！元・保健所センターにいた獣医が手術？そいつらは不妊手術と他の手術は別モノとして甘く考えているんだろうけど、お腹を開ける以上、臓器を摘出する以上、腫瘍摘出も子宮摘出も同じで簡単なわけがありません！手術の経験がないペーパー獣医が動画を見たり1、2ヶ月どこかで研修したぐらいで完璧な手術ができる道理はないじゃろ！猫も十四十色、お腹の中も十四十色、もしものことが起きたらどう対処するん？

あの伝説の山口獣医科病院で勤務していた不妊手術のスペシャリストの獣医師たちですら昼夜を問わず手術に手術を重ねて千匹手術経験を踏んでやつと一人前かな？と言われる厳しい世界ですよ！

しかも私たちと同じように地方に出かけて手術をしたりもする。そのくせ最近スキマ産業獣医の世界ではあとあとクレームを言われないための自己防衛策として【野良猫の手術を目的としているので】《飼い猫や譲渡対象の子の手術はいたしません》と言ったりしているんだそう。それって野良猫なら術後に死んでもバレないからってこと？手先が器用・不器用もあるし、もちろん得手・不得手もあるから誰でも手術ができるわけではないの！ここ数年雨後の竹の子のようにポコポコポココススキマ産業獣医が生まれてきてスキマ産業獣医にくつつく《安い愛護団体》も驚くほどいっぱいあって、私たちの夢を乗せていたTNRの世界は悪化の一途をたどり、もはや手のつけようがない感じ！

これまで《縫ったお腹が開いた》という話は散々聞いているし実際にうちにも縫った箇所が開いている子



が来たことがあります。ついに「TNR手術後に縫ったところから内臓が出た」って子が栃木拠点にやって来ました。縫合箇所が破れて中身が出てきた原因が単純に縫合の失敗なのか不適切に糸が原因で炎症が起きて腹筋や皮膚が我慢できず破れたのかそこらは明確にはわかりませんが※私は不適切な糸による炎症が原因だと思つてます：私がこの目で見たので中身が出ていたことは間違いありません。

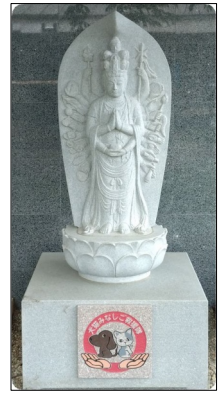
4月19日にSOS。「助けてください！スペイクリニックで手術をした子のお腹から内臓が出てるんです！」20日夜、相談者から引き取る際キャリーに移し替える前にうちの者が

送つて来た写真です。捕獲器の下から撮ってます。右側が頭の方向で後ろ足の間には確かに肉状のものが出てる。21日お昼前に栃木拠点に到着。悪臭が鼻をつきます。出ていたものはどうやら脂肪で皮下脂肪ではなくお腹の中の脂肪。縫ったハズの腹筋も皮膚も破つて出てきたお腹の脂肪。腸ではなかったので手術は早く終わりましたが、いやホンマにこんなことが起きるんですね！そして3日後、傷跡もキレイで糸の反応もなく予後良好なようです。

皆さま！TNR手術をするなら野良猫の無事を第一に考えちゃんとした手術の腕を持ち不適切でない糸を使つてくれる病院を選びましょう！大事なのは手術代より野良猫の命です！

蓮の花の教え

私が仏徒になった理由は大きく二つありそのうちのひとつが《泥中の蓮の花》です。うちの千手観音さまもハスの花(蓮華)の上に立つ



ておられますし、聖観音さまはハスの花のつぼみを持っておられます。このように仏教ではハスを高貴な植物としておりその花に関連したものが随所に見られますがハスは泥の中で生きている植物です。言い換えればハスは清き水の中やサラサラのきれいな砂の中では生きられない植物なのです。そして煩惱のカタマリでできている私たち人間が暮らすこの世もまさに泥。私たち人間もハスと同じようにどんなにもがき苦しんでも泥の中からは出られないのです。だからこそのお釈迦さまの教え、われわれ人間も《ハスと同じように》泥の中に居ながらしっかりと自分を持ち一輪の大きな美しい花を咲かせましょう。

この教えを知った当時の私はスコンと音を立てて納得し、救われた気になって

目の前がパッと明るくなりました。それまでは自分の中の正義感だけで『どいつもこいつもクソばかり!』と世の中に対して夕飯も喉に通らんほど腹を立て《泥水をキレイにしよう》と《やっけになっていました》がそれを丸つとやめることにしました。クソはクソのままです上等!そして《私は私》こんな泥の世界に生きながら泥に毒されることなくいつか一輪の大きな花を咲かせろぞ!生意気なことに私はそのつもりで生きています。なんかええでしょ《泥中の蓮の花》の教え。

山羊への誤解



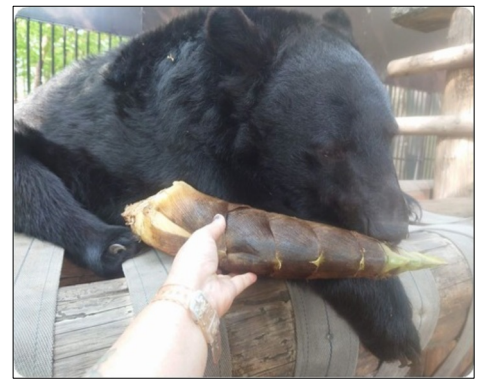
山羊がいるのに草ボウボウの栃木拠点。これは当たり前前のことで山羊には《食べる草》と《食べない草》

があつてほとんどの草が《食べない草》です。山羊が食べるものは牧草のチモシーか葉物野菜なので間違っても《山羊に除草を頼まないで》ください。

草が生えて困るなら砂利を敷き詰めるとか草が生えないシートを張るとか近代人らしく人類が開発したアイテムを使いましょう!山羊にチモシーも与えず草だけ食べさせていたらアツと言う間に栄養失調で死んでしまいます。私たち人間が《アワやヒエだけ》を食べると同じです。

たけのこどろどろ

猫仲間のお宅にたけのこを掘りに行きました。遊具の上でくつろいでいたカツにカツ用にもらった少し成長したたけのこをどろどろカツの動きは私の想像通りじゃ!もう一つ、今度は普通のたけのこをどろどろどろするカツくん、たけのこが二つになったよ!一つはそのままにして片方だけに集中!カツは口と爪を使っ



て楽しそうに皮を剥いていました。めでたしめでたし。手先が器用なニホンザルにもたけのこをプレゼント。やはりニホンザルは手先が器用だからあつという間に皮を剥きますね。そして穂先をちぎって食べました。写真を撮るために私が近づいたら、私に取られると思つて下に降りて行きました。生涯、食べ物を探すために移動を続けると言われているニホンザルの世界は厳しく、食べ物に関しては親もきょうだいもみんなライバルなのです。

本紙は中谷百里代表ブログ「みなしご庵へようこそ」の記事を抜粋したものです。

NPO法人 (特定非営利活動法人)
犬猫みなしご救援隊
www.minashigo.jp

犬猫みなしご救援隊
〒731-0234
広島県広島市安佐北区可部町大字今井田690-2
TEL : 082-812-3745 FAX : 082-815-2711

YAHOO! JAPAN ネット募金

つながる募金

▲ネットやスマホで当団体に募金できます

みなしご通信のバックナンバーは、公式ページに掲載しております。「みなしご通信」で検索してみてください。